

四半期報告書

(第9期第3四半期)

カルナバイオサイエンス株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

カルナバイオサイエンス株式会社

目 次

| | 頁 |
|--------------------------------------|----|
| 【表紙】 | 1 |
| 第一部 【企業情報】 | 2 |
| 第1 【企業の概況】 | 2 |
| 1 【主要な経営指標等の推移】 | 2 |
| 2 【事業の内容】 | 3 |
| 3 【関係会社の状況】 | 3 |
| 4 【従業員の状況】 | 3 |
| 第2 【事業の状況】 | 4 |
| 1 【生産、受注及び販売の状況】 | 4 |
| 2 【事業等のリスク】 | 5 |
| 3 【経営上の重要な契約等】 | 5 |
| 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 | 5 |
| 第3 【設備の状況】 | 8 |
| 第4 【提出会社の状況】 | 9 |
| 1 【株式等の状況】 | 9 |
| 2 【株価の推移】 | 37 |
| 3 【役員の状況】 | 37 |
| 第5 【経理の状況】 | 38 |
| 1 【四半期連結財務諸表】 | 39 |
| 2 【その他】 | 52 |
| 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 | 53 |

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第9期第3四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 カルナバイオサイエンス株式会社

【英訳名】 Carna Biosciences, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉野公一郎

【本店の所在の場所】 神戸市中央区港島南町一丁目5番5号

【電話番号】 078-302-7039 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 相川法男

【最寄りの連絡場所】 神戸市中央区港島南町一丁目5番5号

【電話番号】 078-302-7039 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理本部長 相川法男

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

| 回次 | 第8期 第3四半期連結 累計期間 | 第9期 第3四半期連結 累計期間 | 第8期 第3四半期連結 会計期間 | 第9期 第3四半期連結 会計期間 | 第8期 |
|--------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成22年 1月1日 至 平成22年 9月30日 | 自 平成23年 1月1日 至 平成23年 9月30日 | 自 平成22年 7月1日 至 平成22年 9月30日 | 自 平成23年 7月1日 至 平成23年 9月30日 | 自 平成22年 1月1日 至 平成22年 12月31日 |
| 売上高 (千円) | 432,919 | 447,536 | 109,223 | 135,131 | 571,800 |
| 経常損失(△) (千円) | △269,583 | △232,797 | △118,621 | △102,960 | △370,026 |
| 四半期(当期)純損失(△) (千円) | △296,101 | △309,066 | △138,326 | △103,449 | △397,107 |
| 純資産額 (千円) | — | — | 1,481,508 | 1,096,170 | 1,365,466 |
| 総資産額 (千円) | — | — | 1,743,801 | 1,401,962 | 1,656,196 |
| 1株当たり純資産額 (円) | — | — | 25,234.35 | 18,670.94 | 23,257.82 |
| 1株当たり四半期(当期) 純損失金額(△) (円) | △5,043.45 | △5,264.29 | △2,356.10 | △1,762.04 | △6,763.89 |
| 潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円) | — | — | — | — | — |
| 自己資本比率 (%) | — | — | 85.0 | 78.2 | 82.4 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (千円) | △266,972 | △263,591 | — | — | △309,950 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (千円) | △42,216 | 1,807 | — | — | △45,254 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (千円) | 53,306 | 33,800 | — | — | 38,858 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円) | — | — | 1,233,801 | 945,158 | 1,173,176 |
| 従業員数 (名) | — | — | 49 | 50 | 48 |

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等については、記載しておりません。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失を計上しているため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年9月30日現在

| | |
|---------|--------|
| 従業員数(名) | 50 [5] |
|---------|--------|

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 従業員数欄の [] 外書きは、臨時従業員の当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

(2) 提出会社の状況

平成23年9月30日現在

| | |
|---------|--------|
| 従業員数(名) | 46 [5] |
|---------|--------|

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 従業員数欄の [] 外書きは、臨時従業員の当第3四半期会計期間の平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 生産高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|----------|---------|------------|
| | | |
| 創薬支援事業 | 95,022 | — |

- (注) 1. 上記の金額は、販売価格によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 創薬事業については、生産を行っていないため記載しておりません。

(2) 受注実績

当第3四半期連結会計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 受注高(千円) | 前年同四半期比(%) | 受注残高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|----------|---------|------------|----------|------------|
| | | | | |
| 創薬支援事業 | 121,247 | — | 14,619 | — |
| 創薬事業 | 6,000 | — | — | — |
| 合計 | 127,247 | — | 14,619 | — |

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 販売高(千円) | 前年同四半期比(%) |
|----------|---------|------------|
| | | |
| 創薬支援事業 | 129,131 | — |
| 創薬事業 | 6,000 | — |
| 合計 | 135,131 | — |

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

| 相手先 | 前第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日) | | 当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) | |
|-------------------------------|---|-------|---|-------|
| | 販売高(千円) | 割合(%) | 販売高(千円) | 割合(%) |
| Thermo Fisher Scientific Inc. | 11,644 | 10.7 | — | — |

(注) 当第3四半期連結会計期間におけるThermo Fisher Scientific Inc.の販売実績及び総販売実績に対する割合は、当該割合が100分の10未満となったため、記載を省略しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

(1) 当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

(2) 提出会社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況その他提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事象（重要事象等）

当社グループは、継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響ならびに米国における雇用情勢の悪化やEUにおける財政危機問題に端を発する株式市場の低迷や円高、ドル安ユーロ安の為替相場が継続し、先行き不透明な状況で推移いたしました。当社グループが属する製薬業界におきましては、医療制度改革や大手製薬企業における主力製品の特許切れによる企業収益の圧迫等を背景として、大手製薬企業等による企業間の合従連衡が引き続き模索されるなかで、経営資源の選択と集中が加速度を増しております。

このような外部環境において、当社グループはキナーゼに係る創薬基盤技術にもとづいた創薬支援事業及び創薬事業を積極的に展開し、事業の拡大、深化を図ってまいりました。

事業別に見ますと、まず創薬支援事業におきましては、顧客における技術的なニーズに的確に応えるため学術営業要員を配置して売上の拡大を目指してまいりましたが、その効果もあり、当第3四半期連結会計期間の売上高はすべての地域において前年同期を上回りました。また、創薬事業におきましては、ガンを重点疾患領域と位置づけ、キナーゼを標的とした創薬研究を精力的に進めてまいりました。ガン領域では、独立行政法人国立がん研究センター及びSBIバイオテック社との共同研究において、ステージアップを目指して、高次評価を実施してまいりました。またアルツハイマーなどの神経変性疾患を治療しうる画期的な薬剤の開発を目指して、キノファーマ社とも順調に共同研究を進めてまいりました。その他の研究パイプラインに関しましても、研究パートナーとのアライアンスを活用する等、研究開発リソースを効率的に活用し研究を推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は135百万円（前年同四半期比23.7%増）、営業損失は99百万円（前年同四半期は118百万円の損失）、経常損失102百万円（前年同四半期は118百万円の損失）、四半期純損失103百万円（前年同四半期は138百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は次の通りです。

①創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発及びプロファイリング・スクリーニングサービスの提供等により、創薬支援事業の売上高は129百万円（前年同四半期比27.6%増）、営業利益は5百万円（前年同四半期は7百万円の損失）となりました。売上高の内訳は、キナーゼタンパク質の販売72百万円（前年同四半期比37.8%増）、アッセイ開発4百万円（前年同四半期比64.9%減）、プロファイリング・スクリーニングサービス40百万円（前年同四半期比36.0%増）、その他10百万円（前年同四半期比147.5%増）であります。

②創薬事業

当第3四半期連結会計期間の創薬事業の売上高は6百万円（前年同四半期比25.0%減）、営業損失は105百万円（前年同四半期は110百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,401百万円となり、前連結会計年度末と比べて254百万円減少しました。その内訳は、現金及び預金の減少128百万円、売掛金の増加10百万円、有価証券の減少100百万円、投資有価証券の減少17百万円等であります。

負債は305百万円となり、前連結会計年度末と比べて15百万円増加しました。その内訳は未払金の減少8百万円、預り金の減少39百万円、長期借入金の増加22百万円、資産除去債務の増加23百万円等であります。

純資産は1,096百万円となり、前連結会計年度末と比べて269百万円減少しました。その内訳は四半期純損失の計上309百万円等によるものであります。

また、自己資本比率は78.2%（前連結会計年度末は82.4%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により104百万円減少し、投資活動により1百万円減少し、財務活動により62百万円増加した結果、当第3四半期連結会計期間末においては945百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により減少した資金は104百万円（前年同四半期は91百万円の減少）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失102百万円の計上、売上債権の減少32百万円、未払金の減少44百万円及び減価償却費9百万円の計上等の差し引きによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は1百万円（前年同四半期は23百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出1百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は62百万円（前年同四半期は15百万円の増加）となりました。これは長期借入による収入80百万円及び長期借入金の返済による支出17百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は79百万円であります。

(6) 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク (2) 提出会社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況その他提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事項（重要事象等）」に記載のとおり、当社グループは、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該重要事象等を解消するために、当社グループは、創薬支援事業においては顧客ニーズの高い新サービス、新製品を開発し提案することで国内外の製薬企業等に対して更なる拡販に努め、売上の上積みを図るとともに、創薬事業においては研究開発をさらに推し進め、新薬候補化合物を製薬企業に導出すること等により契約一時金等の収入を獲得してまいります。さらに、研究の効率化や諸経費の節減等に取り組むことにより販売費及び一般管理費の圧縮を実行し、早期の全社業績の黒字化を達成することで、当該重要事象等が解消されるよう取り組んでまいります。

なお、当社グループは事業活動を継続するための十分な手元資金を保有しております。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、第2四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について重要な変更はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 300,000 |
| 計 | 300,000 |

② 【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日) | 提出日現在 発行数(株) (平成23年11月14日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------------|------------------------------------|---------|
| 普通株式 | 58,710 | 58,710 | 大阪証券取引所 JASDAQ (グロース) | (注) 1、2 |
| 計 | 58,710 | 58,710 | — | — |

- (注) 1. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。
2. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
3. 提出日現在の発行数には、平成23年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成15年9月8日) 第1回② | |
|-------------------------------------|--|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 3個(注)1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式(注)2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(注)5 | 30株(注)3、4 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(注)6 | 4,955円(注)3、9、10 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成15年9月12日から 平成25年9月8日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 4,955円 資本組入額 4,955円 (注)3、6、9、10 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)7 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注)7 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | — |

- (注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は10個であり、平成15年9月8日開催の取締役会において上記条件の新株予約権6個の付与を決議しております。
2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。
3. 当社は、平成16年5月6日付で株式1株につき10株の株式分割を行っております。これにより、新株予約権の目的となる株式の数、新株予約権の行使時の払込金額、新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額が調整されております。
4. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、10株であります。
5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合は、当社は次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち当該時点で行使されていない目的たる株式の数のみにて行い、調整の結果生じる1株未満の端数を切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割または併合の比率}$$

6. 当社が株式分割等により当該払込価額を下回る価額による新株の発行が行われる場合は、次の算式(コンバージョン・プライス方式)により調整されるものとします。調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前払込価額} + \text{新発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

7. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。
- (1) 新株予約権は、その一部の株式につき行使することができる。
- (2) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
- (3) その他の条件については、株主総会ならびに取締役会決議に基づき、当社と新株予約権の割当を受けた者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによるものとする。
8. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件
当社が解散したときは、新株予約権を取得する。

9. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は5,000円から4,958円に調整しております。
10. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は4,958円から4,955円に調整しております。

② 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成16年6月14日) 第2回① | |
|---|---|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 175個(注)1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式(注)2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(注)4 | 175株(注)3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(注)5 | 49,538円(注)8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成18年6月21日から 平成26年6月14日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 49,538円 資本組入額 49,538円 (注)5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注)6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は715個であり、平成16年6月18日開催の取締役会において上記条件の新株予約権300個の付与を決議しております。以後、権利放棄等の理由により権利を喪失した個数を減じております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。
3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。
4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは会社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場し、または日本証券業協会に店頭登録する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 発行時に当社の取締役、監査役または従業員であった新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (6) その他の権利行使の条件については、総会決議及び新株予約権発行の取締役決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。

7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が株式予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその株式予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書が承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

③ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成16年6月14日) 第2回② | |
|---|--|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 105個 (注) 1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 (注) 2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数 (注) 4 | 105株 (注) 3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 (注) 5 | 49,538円 (注) 8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成16年6月21日から 平成26年6月14日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 49,538円 資本組入額 49,538円 (注) 5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注) 6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は715個であり、平成16年6月18日開催の取締役会において上記条件の新株予約権105個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは会社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場し、または日本証券業協会に店頭登録する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 発行時に当社の取締役、監査役または従業員であった新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (6) その他の権利行使の条件については、総会決議及び新株予約権発行の取締役決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。

7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が株式予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその株式予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書が承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

④ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成16年6月14日) 第3回① | |
|---|---|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 90個(注)1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式(注)2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(注)4 | 90株(注)3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(注)5 | 49,538円(注)8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成18年10月1日から 平成26年6月14日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 49,538円 資本組入額 24,769円 (注)5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注)6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は715個であり、平成16年8月20日開催の取締役会において上記条件の新株予約権150個の付与を決議しております。以後、権利放棄等の理由により権利を喪失した個数を減じております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。
3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。
4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは会社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場し、または日本証券業協会に店頭登録する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 発行時に当社の取締役、監査役または従業員であった新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (6) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。

7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書が承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は50,000円から49,572円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は25,000円から24,786円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は49,572円から49,538円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は24,786円から24,769円に調整しております。

⑤ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成16年6月14日) 第3回② | |
|---|--|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 140個 (注) 1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 (注) 2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数 (注) 4 | 140株 (注) 3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 (注) 5 | 49,538円 (注) 8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成16年10月1日から 平成26年6月14日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 49,538円 資本組入額 24,769円 (注) 5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注) 6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は715個であり、平成16年8月20日開催の取締役会において上記条件の新株予約権160個の付与を決議しております。以後、権利放棄等の理由により権利放棄した個数を減じております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。
3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。
4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。
 - (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場し、または日本証券業協会に店頭登録する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
 - (2) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
 - (3) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
 - (4) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
 - (5) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。
7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件
 - (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
 - (2) 当社が消滅会社となる合併契約書が承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。
8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は50,000円から49,572円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は25,000円から24,786円に調整しております。
9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は49,572円から49,538円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は24,786円から24,769円に調整しております。

⑥ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成17年1月24日) 第4回 | |
|---|--|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 60個 (注) 1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 (注) 2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数 (注) 4 | 60株 (注) 3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 (注) 5 | 99,075円 (注) 8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成19年1月25日から 平成27年1月24日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注) 5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注) 6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は160個であり、平成17年1月24日開催の取締役会において上記条件の新株予約権60個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。
3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。
4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場し、または日本証券業協会に店頭登録する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 発行時に当社の従業員であった新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (6) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。

7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書が承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

⑦ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成17年1月24日) 第5回 | |
|---|---|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 80個(注)1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式(注)2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(注)4 | 80株(注)3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(注)5 | 99,075円(注)8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成19年4月1日から 平成27年1月24日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注)5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注)6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は160個であり、平成17年3月11日開催の取締役会において上記条件の新株予約権100個の付与を決議しております。以後、権利放棄等の理由により権利を喪失した個数を減じております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。
3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。
4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場し、または日本証券業協会に店頭登録する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (6) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。

7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書が承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

⑧ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成18年3月29日) 第7回 | |
|-------------------------------------|---|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 180個 (注) 1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 (注) 2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数 (注) 4 | 180株 (注) 3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 (注) 5 | 99,075円 (注) 9、10 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成20年4月3日から 平成28年3月28日まで (注) 8 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注) 5、9、10 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注) 6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は500個であり、平成18年3月29日開催の取締役会において上記条件の新株予約権180個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。
 - (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
 - (2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
 - (3) 新株予約権1個未満の行使はできない。
 - (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
 - (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
 - (6) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。
7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件
 - (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
 - (2) 当社が消滅会社となる合併契約書が承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書の議案または株式移転の議案につき株主総会で承認されたときは、当社は新株予約権を無償で取得することができる。
8. 平成19年8月31日開催の臨時株主総会において、新株予約権の行使期間を「自 平成20年4月3日 至 平成28年4月2日」から「自 平成20年4月3日 至 平成28年3月28日」に変更することを決議しております。
9. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。
10. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

⑨ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成18年3月29日) 第8回 | |
|---|--|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 190個 (注) 1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 (注) 2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数 (注) 4 | 190株 (注) 3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 (注) 5 | 99,075円 (注) 8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成20年7月18日から 平成28年4月2日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注) 5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注) 6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は500個であり、平成18年7月14日開催の取締役会において上記条件の新株予約権190個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により払込価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める払込価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。
 - (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
 - (2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
 - (3) 新株予約権1個未満の行使はできない。
 - (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
 - (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
 - (6) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。
7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件
 - (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
 - (2) 当社が消滅会社となる合併契約書、当社が分割会社となる分割契約書若しくは分割計画及び当社が完全子会社となる株式交換契約書若しくは株式移転の議案が株主総会で承認された場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。
8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。
9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

⑩ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成18年3月29日) 第9回 | |
|-------------------------------------|---|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 40個(注)1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式(注)2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(注)4 | 40株(注)3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(注)5 | 99,075円(注)8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成20年10月16日から 平成28年4月2日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注)5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注)6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は500個であり、平成18年10月13日開催の取締役会において上記条件の新株予約権40個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。
 - (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
 - (2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
 - (3) 新株予約権1個未満の行使はできない。
 - (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
 - (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
 - (6) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。
7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件
 - (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
 - (2) 当社が消滅会社となる合併契約書、当社が分割会社となる分割契約書若しくは分割計画及び当社が完全子会社となる株式交換契約書若しくは株式移転の議案が株主総会で承認された場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。
8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。
9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

⑪ 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成18年3月29日) 第10回 | |
|---|---|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 50個(注)1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式(注)2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(注)4 | 50株(注)3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(注)5 | 99,075円(注)8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成21年1月4日から 平成28年4月2日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注)5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | (注)6 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は500個であり、平成18年12月15日開催の取締役会において上記条件の新株予約権50個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

4. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式の数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行うことができるものとします。

6. 当該新株予約権の行使の条件及び譲渡に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場する日の前日までは新株予約権を行使することができない。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権1個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分は認めないものとする。
- (5) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (6) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。

7. 新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が権利を行使できる条件に該当しなくなった場合及び新株予約権者が新株予約権の全部又は一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書、当社が分割会社となる分割契約書若しくは分割計画及び当社が完全子会社となる株式交換契約書若しくは株式移転の議案が株主総会で承認された場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

⑫ 会社法第238条及び会社法第239条の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成19年3月29日) 第11回 | |
|-------------------------------------|--|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 980個 (注) 1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 (注) 2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数 (注) 4 | 980株 (注) 3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 (注) 5 | 99,075円 (注) 8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成22年4月16日から 平成29年3月29日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注) 5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を必要とする。 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は2,000個であり、平成19年4月13日開催の取締役会において上記条件の新株予約権980個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

4. 当社が株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。)または株式併合等を行う場合、次の算式により目的である株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併、会社分割、株式交換または株式移転等を行う場合等、目的である株式数の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める目的である株式数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。)または株式併合等を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行うことができるものとします。

6. 新株予約権の行使の条件は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場する日の前日までは新株予約権を行使することができないものとする。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (5) その他の権利行使の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるものとする。

7. 本新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が新株予約権の全部または一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書、当社が分割会社となる分割契約書もしくは分割計画及び当社が完全子会社となる株式交換契約書もしくは株式移転計画の議案が株主総会で承認された場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

⑬ 会社法第238条及び会社法第239条の規定に基づく新株予約権の状況

| 株主総会の特別決議日(平成19年3月29日) 第12回 | |
|---|--|
| | 第3四半期会計期間末現在 (平成23年9月30日) |
| 新株予約権の数 | 390個 (注) 1 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数 | — |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 (注) 2 |
| 新株予約権の目的となる株式の数 (注) 4 | 390株 (注) 3 |
| 新株予約権の行使時の払込金額 (注) 5 | 99,075円 (注) 8、9 |
| 新株予約権の行使期間 | 平成22年7月17日から 平成29年3月29日まで |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額 | 発行価格 99,075円 資本組入額 49,538円 (注) 5、8、9 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注) 6 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を必要とする。 |
| 代用払込みに関する事項 | — |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に 関する事項 | — |

(注) 1. 株主総会決議により承認を受けた新株予約権の数は2,000個であり、平成19年7月13日開催の取締役会において上記条件の新株予約権390個の付与を決議しております。

2. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

3. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

4. 当社が株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。)または株式併合等を行う場合、次の算式により目的である株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとします。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併、会社分割、株式交換または株式移転等を行う場合等、目的である株式数の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める目的である株式数の調整を行うことができるものとします。

5. 当社が株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。)または株式併合等を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分(新株予約権の行使による場合を除く。)を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たりの払込価額}}{\text{1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記の計算式において「既発行株式数」とは当社の発行済株式総数から当社の保有する自己株式の総数を控除した数とし、また、自己株式を処分する場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとします。

また、当社が他社との吸収合併もしくは新設合併を行い本新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める行使価額の調整を行うことができるものとします。

6. 新株予約権の行使の条件は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の権利行使期間にかかわらず、新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社の株式が日本国内の証券取引所に上場する日の前日までは新株予約権を行使することができないものとする。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (2) 新株予約権者は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役または従業員の地位を保有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年による退任・退職もしくは会社都合によりこれらの地位を失った場合その他取締役会が正当な理由があると認めた場合についてはこの限りではない。
- (3) 新株予約権 1 個未満の行使はできない。
- (4) 新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができる。ただし、「新株予約権割当契約書」に定める条件による。
- (5) その他の権利行使の条件については、当社と新株予約権者で締結した「新株予約権割当契約書」によるものとする。

7. 本新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件

- (1) 新株予約権者が新株予約権の全部または一部を放棄した場合、当社はその新株予約権を無償で取得することができる。
- (2) 当社が消滅会社となる合併契約書、当社が分割会社となる分割契約書もしくは分割計画及び当社が完全子会社となる株式交換契約書もしくは株式移転計画の議案が株主総会で承認された場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

8. 平成21年12月2日を払込期日とする一般募集による増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は100,000円から99,143円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は50,000円から49,572円に調整しております。

9. 平成21年12月25日を払込期日とする第三者割当増資に伴い、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格」は99,143円から99,075円に、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額」は49,572円から49,538円に調整しております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成23年7月1日～ 平成23年9月30日 | — | 58,710 | — | 2,125,632 | — | 673,100 |

(6) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成23年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------|----------|----------------------------|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式(自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式(その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式(自己株式等) | — | — | — |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 58,710 | 58,710 | 権利内容に何ら限定のない当社における標準的となる株式 |
| 単元未満株式 | — | — | — |
| 発行済株式総数 | 58,710 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 58,710 | — |

② 【自己株式等】

平成23年6月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|----------------|--------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| — | — | — | — | — | — |
| 計 | — | — | — | — | — |

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成23年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|-------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 最高(円) | 48,200 | 40,500 | 39,400 | 39,550 | 54,200 | 51,000 | 39,700 | 35,000 | 32,000 |
| 最低(円) | 37,000 | 37,500 | 21,700 | 27,910 | 33,200 | 39,100 | 31,900 | 25,810 | 27,200 |

(注) 株価は、大阪証券取引所 J A S D A Q (グロース) におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日) |
|---------------|-------------------------------|---|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 815,158 | 943,176 |
| 売掛金 | 65,777 | 54,908 |
| 有価証券 | 200,000 | 300,000 |
| 商品及び製品 | 93,043 | 102,926 |
| 仕掛品 | 10,093 | 8,247 |
| 原材料及び貯蔵品 | 10,598 | 8,826 |
| その他 | 41,169 | 38,384 |
| 貸倒引当金 | △15 | △16 |
| 流動資産合計 | 1,235,826 | 1,456,453 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | ※ 58,767 | ※ 66,775 |
| 無形固定資産 | 15,226 | 20,253 |
| 投資その他の資産 | 92,142 | 112,713 |
| 固定資産合計 | 166,136 | 199,743 |
| 資産合計 | 1,401,962 | 1,656,196 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 93 | — |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 69,216 | 57,792 |
| 未払金 | 25,403 | 33,806 |
| 未払法人税等 | 3,288 | 5,357 |
| その他 | 28,292 | 64,705 |
| 流動負債合計 | 126,293 | 161,661 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 151,444 | 129,068 |
| 繰延税金負債 | 4,906 | — |
| 資産除去債務 | 23,148 | — |
| 固定負債合計 | 179,498 | 129,068 |
| 負債合計 | 305,791 | 290,729 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,125,632 | 2,125,632 |
| 資本剰余金 | 673,100 | 673,100 |
| 利益剰余金 | △1,704,441 | △1,395,374 |
| 株主資本合計 | 1,094,291 | 1,403,357 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 10,635 | △30,277 |
| 為替換算調整勘定 | △8,756 | △7,613 |
| 評価・換算差額等合計 | 1,879 | △37,890 |
| 純資産合計 | 1,096,170 | 1,365,466 |
| 負債純資産合計 | 1,401,962 | 1,656,196 |

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | 432,919 | 447,536 |
| 売上原価 | 146,994 | 144,013 |
| 売上総利益 | 285,925 | 303,523 |
| 販売費及び一般管理費 | ※ 586,060 | ※ 590,857 |
| 営業損失(△) | △300,135 | △287,334 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 820 | 440 |
| 補助金収入 | 33,657 | 57,354 |
| その他 | 568 | 2,282 |
| 営業外収益合計 | 35,046 | 60,077 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,918 | 2,496 |
| 為替差損 | 2,344 | 2,686 |
| その他 | 230 | 357 |
| 営業外費用合計 | 4,494 | 5,540 |
| 経常損失(△) | △269,583 | △232,797 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 24,759 | 576 |
| 投資有価証券評価損 | — | 58,877 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | — | 10,243 |
| 特別損失合計 | 24,759 | 69,696 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △294,343 | △302,494 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,758 | 1,758 |
| 法人税等調整額 | — | 4,814 |
| 法人税等合計 | 1,758 | 6,572 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失(△) | — | △309,066 |
| 四半期純損失(△) | △296,101 | △309,066 |

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日) |
|--------------------|---|---|
| 売上高 | 109,223 | 135,131 |
| 売上原価 | 44,207 | 50,261 |
| 売上総利益 | 65,015 | 84,870 |
| 販売費及び一般管理費 | * 183,303 | * 184,671 |
| 営業損失(△) | △118,287 | △99,801 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 236 | 147 |
| その他 | 394 | 232 |
| 営業外収益合計 | 631 | 380 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 879 | 973 |
| 為替差損 | 8 | 2,361 |
| その他 | 76 | 203 |
| 営業外費用合計 | 965 | 3,538 |
| 経常損失(△) | △118,621 | △102,960 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 19,119 | — |
| 特別損失合計 | 19,119 | — |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △137,740 | △102,960 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 586 | 586 |
| 法人税等調整額 | — | △97 |
| 法人税等合計 | 586 | 489 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失(△) | — | △103,449 |
| 四半期純損失(△) | △138,326 | △103,449 |

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △294,343 | △302,494 |
| 減価償却費 | 47,283 | 27,134 |
| 減損損失 | 24,759 | 576 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | △18 | △1 |
| 受取利息 | △820 | △440 |
| 支払利息 | 1,918 | 2,496 |
| 補助金収入 | △33,657 | △57,354 |
| 投資有価証券評価損益(△は益) | — | 58,877 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | — | 10,243 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 75,026 | △11,898 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △22,577 | 6,114 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △2 | 93 |
| 未払金の増減額(△は減少) | △73,015 | △7,977 |
| その他 | 1,168 | △940 |
| 小計 | △274,277 | △275,571 |
| 利息の受取額 | 848 | 475 |
| 利息の支払額 | △2,106 | △2,519 |
| 補助金の受取額 | 10,410 | 19,000 |
| 法人税等の支払額 | △2,522 | △2,449 |
| 法人税等の還付額 | 676 | 215 |
| その他 | — | △2,742 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △266,972 | △263,591 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △31,633 | △2,545 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △387 | — |
| 投資有価証券の取得による支出 | △9,995 | — |
| 投資有価証券の売却による収入 | — | 815 |
| 差入保証金の差入による支出 | △200 | — |
| 差入保証金の回収による収入 | — | 3,537 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △42,216 | 1,807 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入れによる収入 | 150,000 | 80,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △26,694 | △46,200 |
| 担保に供した預金の増減額(△は増加) | △70,000 | — |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 53,306 | 33,800 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △1,031 | △33 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △256,914 | △228,017 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,490,716 | 1,173,176 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | ※ 1,233,801 | ※ 945,158 |

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

| 当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日) |
|---|
| 会計処理基準に関する事項の変更 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。 これにより、営業損失及び経常損失はそれぞれ1,056千円増加し、税金等調整前四半期純損失は11,299千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は22,808千円でありませ |

【表示方法の変更】

| 当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日) |
|---|
| (四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失（△）」の科目を表示しております。 |

| 当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) |
|---|
| (四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失（△）」の科目を表示しております。 |

【簡便な会計処理】

記載すべき重要な事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

| 当第3四半期連結会計期末 (平成23年9月30日) | 前連結会計年度末 (平成22年12月31日) |
|---|----------------------------------|
| ※ 有形固定資産の減価償却累計額 523,386千円 減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。 | ※ 有形固定資産の減価償却累計額 492,271千円 同左 |

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

| 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日) |
|---|---|
| ※ 販売費及び一般管理費の主なもの 役員報酬 62,325千円 給料手当 88,536千円 支払手数料 71,141千円 研究開発費 262,195千円 なお、研究開発費はすべて一般管理費に計上しており、上記の金額は研究開発費の総額であります。 | ※ 販売費及び一般管理費の主なもの 役員報酬 50,755千円 給料手当 92,965千円 支払手数料 68,497千円 研究開発費 279,374千円 なお、研究開発費はすべて一般管理費に計上しており、上記の金額は研究開発費の総額であります。 |

第3四半期連結会計期間

| 前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日) |
|--|--|
| ※ 販売費及び一般管理費の主なもの 役員報酬 20,600千円 給料手当 28,228千円 支払手数料 18,713千円 研究開発費 86,870千円 なお、研究開発費はすべて一般管理費に計上しており、上記の金額は研究開発費の総額であります。 | ※ 販売費及び一般管理費の主なもの 役員報酬 16,755千円 給料手当 32,666千円 支払手数料 23,935千円 研究開発費 79,873千円 なお、研究開発費はすべて一般管理費に計上しており、上記の金額は研究開発費の総額であります。 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日) |
|--|--|
| ※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) 現金及び預金 1,003,801千円 有価証券 300,000千円 計 1,303,801千円 担保に供している定期預金 △70,000千円 現金及び現金同等物 1,233,801千円 | ※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) 現金及び預金 815,158千円 有価証券 200,000千円 計 1,015,158千円 担保に供している定期預金 △70,000千円 現金及び現金同等物 945,158千円 |

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

| 株式の種類 | 当第3四半期 連結会計期間末 |
|---------|-------------------|
| 普通株式(株) | 58,710 |

2. 自己株式の種類及び株式数

該当事項はありません。

3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

| | 創薬支援事業 (千円) | 創薬事業 (千円) | 計 (千円) | 消去又は全社 (千円) | 連結(千円) |
|-------------|----------------|--------------|-----------|----------------|----------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客に対する売上高 | 101,223 | 8,000 | 109,223 | — | 109,223 |
| 計 | 101,223 | 8,000 | 109,223 | — | 109,223 |
| 営業損失(△) | △7,950 | △110,336 | △118,287 | — | △118,287 |

(注) 1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分の主な製品又は事業の内容

- (1) 創薬支援事業…キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、
プロファイリング・スクリーニングサービス
- (2) 創薬事業……キナーゼ阻害薬研究

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

| | 創薬支援事業 (千円) | 創薬事業 (千円) | 計 (千円) | 消去又は全社 (千円) | 連結(千円) |
|---------------|----------------|--------------|-----------|----------------|----------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客に対する売上高 | 411,009 | 21,910 | 432,919 | — | 432,919 |
| 計 | 411,009 | 21,910 | 432,919 | — | 432,919 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 44,977 | △345,113 | △300,135 | — | △300,135 |

(注) 1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分の主な製品又は事業の内容

- (1) 創薬支援事業…キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、
プロファイリング・スクリーニングサービス
- (2) 創薬事業……キナーゼ阻害薬研究

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

| | 日本(千円) | 北米(千円) | 計(千円) | 消去又は 全社(千円) | 連結(千円) |
|---------------------------|----------|--------|----------|----------------|----------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に 対する売上高 | 80,047 | 29,176 | 109,223 | — | 109,223 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 21,005 | — | 21,005 | (21,005) | — |
| 計 | 101,053 | 29,176 | 130,229 | (21,005) | 109,223 |
| 営業損失(△) | △113,459 | △4,478 | △117,937 | (349) | △118,287 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。

北米…米国

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

| | 日本(千円) | 北米(千円) | 計(千円) | 消去又は 全社(千円) | 連結(千円) |
|---------------------------|----------|--------|----------|----------------|----------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に 対する売上高 | 333,114 | 99,804 | 432,919 | — | 432,919 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 65,645 | — | 65,645 | (65,645) | — |
| 計 | 398,760 | 99,804 | 498,565 | (65,645) | 432,919 |
| 営業損失(△) | △289,888 | △9,898 | △299,787 | (348) | △300,135 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。

北米…米国

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

| | 北米 | 欧州 | その他の地域 | 計 |
|------------------------------|--------|--------|--------|---------|
| I 海外売上高(千円) | 29,176 | 14,006 | 2,188 | 45,371 |
| II 連結売上高(千円) | — | — | — | 109,223 |
| III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%) | 26.7 | 12.8 | 2.0 | 41.5 |

- (注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 (1) 北米…米国、カナダ
 (2) 欧州…デンマーク、ベルギー、英国、スペイン
 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

| | 北米 | 欧州 | その他の地域 | 計 |
|------------------------------|--------|--------|--------|---------|
| I 海外売上高(千円) | 99,804 | 44,652 | 28,133 | 172,590 |
| II 連結売上高(千円) | — | — | — | 432,919 |
| III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%) | 23.1 | 10.3 | 6.5 | 39.9 |

- (注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 (1) 北米…米国、カナダ
 (2) 欧州…デンマーク、ベルギー、英国、スペイン
 3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、創薬基盤技術をベースに「創薬支援事業」及び「創薬事業」を展開しており、この2つの事業を報告セグメントとしております。

「創薬支援事業」では、キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービス等を行っております。「創薬事業」では、キナーゼ阻害薬の研究開発を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | |
|-------------------|---------|----------|----------|
| | 創薬支援事業 | 創薬事業 | 計 |
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 428,336 | 19,200 | 447,536 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 428,336 | 19,200 | 447,536 |
| セグメント利益又は損失(△) | 71,727 | △359,061 | △287,334 |

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。

当第3四半期連結会計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | |
|-------------------|---------|----------|---------|
| | 創薬支援事業 | 創薬事業 | 計 |
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 129,131 | 6,000 | 135,131 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 129,131 | 6,000 | 135,131 |
| セグメント利益又は損失(△) | 5,894 | △105,696 | △99,801 |

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要な事項はありません。

(金融商品関係)

企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度末日に比べ著しい変動が認められるものはありません。

(有価証券関係)

当社グループの有価証券は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を全く利用していないので該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当四半期連結会計期間においてストック・オプションの付与はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社グループの資産除去債務は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

| 当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日) | 前連結会計年度末 (平成22年12月31日) |
|-------------------------------|---------------------------|
| 18,670円94銭 | 23,257円82銭 |

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日) | 前連結会計年度末 (平成22年12月31日) |
|--------------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 純資産の部の合計額(千円) | 1,096,170 | 1,365,466 |
| 普通株式に係る四半期末(期末)の純資産額(千円) | 1,096,170 | 1,365,466 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた四半期末(期末)の普通株式の数(株) | 58,710 | 58,710 |

2. 1株当たり四半期純損失

第3四半期連結累計期間

| 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日) |
|---|---|
| 1株当たり四半期純損失 5,043円45銭 | 1株当たり四半期純損失 5,264円29銭 |
| なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。 | 同左 |

(注) 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日) |
|---|---|---|
| 四半期連結損益計算書上の四半期純損失(千円) | 296,101 | 309,066 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | — | — |
| 普通株式に係る四半期純損失(千円) | 296,101 | 309,066 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 58,710 | 58,710 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要 | — | — |

第3四半期連結会計期間

| 前第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) |
|--|---|
| 1株当たり四半期純損失 2,356円10銭 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。 | 1株当たり四半期純損失 1,762円04銭 同左 |

(注) 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日) | 当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) |
|---|---|---|
| 四半期連結損益計算書上の四半期純損失(千円) | 138,326 | 103,449 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | — | — |
| 普通株式に係る四半期純損失(千円) | 138,326 | 103,449 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 58,710 | 58,710 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要 | — | — |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月 5日

カルナバイオサイエンス株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

| | | | | | | |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 寺 | 田 | 勝 | 基 | 印 |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|

| | | | | | | |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 南 | 方 | 得 | 男 | 印 |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカルナバイオサイエンス株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、カルナバイオサイエンス株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月 8 日

カルナバイオサイエンス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寺 田 勝 基 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 南 方 得 男 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカルナバイオサイエンス株式会社の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、カルナバイオサイエンス株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

| | |
|-----------------------|---------------------------------------|
| 【提出書類】 | 確認書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の8第1項 |
| 【提出先】 | 近畿財務局長 |
| 【提出日】 | 平成23年11月14日 |
| 【会社名】 | カルナバイオサイエンス株式会社 |
| 【英訳名】 | Carna Biosciences, Inc. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 吉野 公一郎 |
| 【最高財務責任者の役職氏名】 | 該当事項はありません。 |
| 【本店の所在の場所】 | 神戸市中央区港島南町一丁目5番5号 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号) |

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 吉野公一郎は、当社の第9期第3四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。